

『とんでもないこと』 (マタイの福音書 16章 21-28節) 2021.2.21.

<はじめに> イエスこそ「生ける神の子キリストです」(16)と弟子たちは告白しました。救い主(キリスト)を世に明らかにするには、どんな方法が望ましいでしょう。私たちは救い主キリストをどんな方だと紹介しているでしょう。難しくわかりにくい方だから、紹介できないと思っていませんか。

I イエスとペテロ(21-23)

①ターニングポイント(21)

イエスのこれまでの活動はガリラヤ地方での御業と教えが中心でした(4:12-17)。「そのときから」(21)イエスのご自分についてどんなことを弟子たちに告げましたか。そのきっかけは何だったのでしょうか。イエスは彼らにキリストとはどんな者かを示そうとされました。

②諫めるペテロ(22)

イエスが「...なければならぬ」(21)と言ったのは強い願望・意欲でなく、御父の御心だからです。ペテロは、イエスのことばの何がとんでもないと思ったのでしょうか。ペテロはイエスのことばを打ち消しにかかります。「神がそんなことを禁止されます」(英直訳⇒19脚注)。

③下がれ、サタン(23)

神を語り御心から逸らせようとするペテロに、イエスはサタンの影を見、退けました(4:10)。ペテロは神の計画には無知でした。自分の理想とするキリスト像に合致するなら受け入れ、そうでないなら拒絶する畏にはまり、イエスをも巻き込もうとしてしまいました(⇒1, 6)。

II イエスと弟子たち(24-28)

①いのちを見出す(24-25)

主はご自分について来たいと願う者にどんな行動を求めていますか。死刑宣告を受けた者が自分の十字架を負い、自分本位の判断に No を、御心に Yes を表します。自分を捨ててイエスのためにいのちを失う者には、逆説的に真のいのちを見出すと言われます。

②いのちを買い戻す代価(25-26)

自分のいのちを自分で救えるでしょうか。また自分のいのちを賭して全世界を手に入れたとしても、そのいのちの贖い代は高く、だれも何も差し出せません(詩篇 49:7-8)。いのちは神の領域ですから、神の御心に沿うことなしに、真のいのちを得ることはできません。

③やがて人の子が来る(27-28)

受難の主が三日目によみがえる(21)ことは、弟子たちの耳には入らなかったでしょう。主はやがて栄光を帯びて来られ、それぞれの行いに報われます。28節は弟子たちの生存中に神の国と主の到来があるとの約束です。その実現が何なのかを考えてみてください。

III 主を知ることに進もう

①救い主の道(21-23)

キリストが私たちの思い願う理想どおりに働いてくださるとは限りません。むしろ苦難・死を貫いて、なお輝く栄光の主です。聞かれない祈りはありませんが、私たちの思い通りに神様は動かれません。しかし信じる者を「なるほど」と肯かせ、「さすが」と唸らせる御方です。

②弟子の道(24-26)

この主について行く弟子の道もまた平坦ではありません。「もうだめ」と思われても、なお主にその身といのちを委ねる者を、死んでも生かしてくださる御方です。かつて自分のいのちを救おうとした傲慢な者のためにも、その贖いの代価として主は死んでくださいました。

③育て、報いられる(27-28)

受難の主を受け入れられなかった弟子たち、誤って主を諫めたペテロさえも、主は見限られてはいません。忍耐をもって教え諭し、その理解と信仰を育てようと関わられます。主は一人ひとり、その行い一つ一つを丁寧に報いてくださる御方です。

<おわりに> 「ですから、愛する者たち。あなたがたは前もって分かっているのですから、不道徳な者たちの惑わしに誘い込まれて、自分自身の堅実さを失わないよう、よく気をつけなさい。私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい」(II ペテロ 3:17-18)